

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

職場の仲間とともに、健康で働きやすい職場づくりをめざそう

府障教は対象となるすべての教職員の皆さんに、 ストレスチェック「調査票」提出を呼びかけます

2016年9月 大阪府立障害児学校教職員組合執行委員会



1 ストレスチェック制度とは

ストレスチェック制度は、2015年1月2月に行われた労働安全衛生法の一部改正により新たに設けられた制度で、事業者は労働者のストレスチェックと面接指導の実施等を義務づけています。

厚労省の「心理的な負担の程度を把握するための検査及び面接指導の実施並びに面接指導結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針」では、以下の3点を制度の基本的な考え方としています。それは、自らのストレス状況への気づきを促し、個々の労働者のストレスを低減させる、結果の集団ごとの分析で、職場のストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることで、ストレス要因そのものの低減努力を事業者に求める、高ストレス者を早期発見し、医師による面接指導につなげる、というものです。

2 府教委が行うストレスチェック制度の概要

府教委は8月1日に、府立学校におけるストレスチェック制度実施要綱(以下、実施要綱)を施行しました。実施要綱では、常勤職員(再任用短時間を含む)、非常勤職員で年間通して週29時間以上の勤務者など、ほぼ全ての教職員を対象とし、全府立学校で実施するとしています。対象者には、厚労省が推奨する57項目の質問(頭痛・肩こり、

3 ストレスチェック制度の活用に関する府障教の考え方

府障教は、ストレスチェック制度の実施責任は使用者にあることから、こうした制度の趣旨を教職員にいていねいに説明することや、対象者への「調査票」用紙の配布・回収、結果通知の本人交付等の事務は、管理職の責任で行うよう府教委に求めました。

ストレスチェック制度は、「メンタルヘルス不調者を見つけて出すための調査」ではありません。ストレスを生み出す要因となっている職場の問題点を発見して対処するための調査で、心の不調を訴える人を出さないことが目標です。

不眠の有無、自分のペースで仕事ができるか等をもとに作成された「調査票」が配布されます。記入後集められた「調査票」は、外部委託機関(今年度は「一般社団法人オリエンタル労働衛生協会」)に送られて職場ごとに判定分析され、結果は本人通知されます。結果は封入されるため、本人の同意が無ければ学校長も見ることはできません。ストレスチェックの結果は、第三者に閲覧されることがないよう厳密な管理を行わなければならない」としています。

4 対象者すべての皆さんの提出を

重視する必要があります。職場における課題が、学校長や職場の安全衛生委員会の努力だけで解決できない問題であれば、当然府教委が中心となって「職場のストレス要因の低減」をはからなければなりません。府障教は、府教委と連携して各校の集団分析結果を把握するよう求めるとともに、障害種別や学校規模別(在籍児童生徒数等)の観点で、各課題を明らかにし、それに対する具体的手立てと改善方を府教委に求めていきます。

教職員の心の健康は、個人の責任だけでは守れません。心も身体も健康で働ける職場環境づくりのためには、職場を良くしようとする一人ひとりの思いをできるだけ多く積み上げる必要があります。ストレス対策としての職場環境改善に向け、府障教は対象となるすべての教職員の皆さんに「調査票」の提出を呼びかけます。

教師としての成長と組合活動の大切さ

府障教 職場活動交流会

次号から
各ブロックについて
詳しく紹介していきます！

9月13日、府障教の職場活動交流会が開かれ、13分會から17人が参加しました。府障教では今年度、青年とともに障害児教育について大切にしたいことを話し合い、青年組合員が組合に入っている良かったと思える企画をめぐり、障害児教育を語るとりくみ、ベテラン組合員から青年組合員へ』を実施しました。今回の職場活動交流会は、その実施報告をもとに、青年の要求等について討議し、次年度以降のとりくみをどうするか、意見交流を行う機会にしよう」と開催しました。

職場活動交流会の様子



5つのブロック、聴覚支援、北河内、堺・泉北・泉南、中・南河内、北摂・豊能)から報告された概要では、とりくみによって、参加人数が10数人のところから、40人近い参加者が集まったところまで多少のバラツキはありました。しかし、参加した青年の感想は、「自分が日々の仕事に追われている中で忘れていた初心を思い出した」「やってみてみたいな」「明日からすぐ実践したくなる」と思えるものが沢山あって2学期からの授業が楽しみになった」「組合について、正直まだわからないことが多いが、先生方の実践や悩みを聞くことや、子どもに対しての思いなどを聞き、とても勉強になった」など、前向きなものが多かったことが報告されました。

また、異動で職場が分かれていた青年組合員同士が、今回のとりくみを機に久しぶりに再会し、それぞれの近況を交流する貴重な機会にもなったという報告もありました。今回行った「障害児教育を語るとりくみ、ベテラン組合員から青年組合員へ」では、報告を行ったベテラン組合員から教師として育ちゆく自分自身と組合活動の大切さが語られ、それが多くの青年に「貴重な話」として伝わりました。その点では、組合員で良かったと思えるとりくみを作ろうとした目的は一定達成できたと言えるでしょう。

教育への熱い思いが語られた一人一言発言
四條畷校分会 2016年度分会総会

7月20日、いろいろあった1学期終業式のお昼休み、お弁当を食べながら四條畷校分会の分会総会を行いました。

新しい組合員もたくさん迎え、昨年8月から今年7月までの様々な学習会への参加や平和のとりくみなどの活動報告と、今年度の方針を確認しました。その後、参加者全員が一言ずつ発言しました。

若い人たちからは、目の前の生徒たちに悩みながらもいろいろ勉強して、子どもたちを大切に教育をしていきたい、という初々しくも頼もしい発言がありました。子育て中の人たちからは、仕事との両立のことや保育所問題へのとりくみなど、日々の大変さの中で奮闘する様子が語られました。また、ベテランからは、教育への熱い思いが語られるなど、感動的な発言が続きました。

短い時間でしたが、多くの組合員が集まり、ホッとすることもまた一緒にがんばっていること、元気の出る総会でした。



各ブロックのとりくみを交流しました

府障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



大阪府内の公立中学3年生が6月に受けた、府独自の「チャレンジテスト」の学校別成績によって、来春の公立高校入試の内申点の平均値が決まる仕組みが導入されようとしています。高得点だった学校では、生徒に高い内申点をつけられる一方で、府内平均よりも低かった学校では、低い内申点をつけざるを得なくなりそうです。

しかも、音楽や体育などテスト教科以外の評定の範囲までが決められてしまったため、音楽や運動が得意な生徒が、学校によっては正しい評価を受けられない可能性もあります。各高校が採用する方式にもよりますが、教科の内申点が「1」(違っただけ)、入試当日のテストの点数10点差(90点満点)になります。たった1回のテストで、入試に有利な学校と不利な学校を意図的につくるというもので、現場を馬鹿にしている」との声が出るのも当然です。支援学級の教育が大きくゆがめられている。その子に必要な学習より、受験対策のための学習を優先せざるを得ないなど、障害のある子どもたちへの悪影響を危惧する声もあります。

昨年10月に、共産党府議がテストの中止を求めたのに続いて、今年1月には自民党府議団も、毎年1億円もの予算を投じて行われる「中3チャレンジテスト」は取りやめよう求める「会派の見解」をまとめました。府公立中学校校長会は、高校入学者選抜方法について、調査書(内申書)に記載する評定については各中学校にゆだねられたいとする要望書を提出しています。内申点にまで教育行政が介入する維新府政に対して、各分野から批判の声が上がっています。